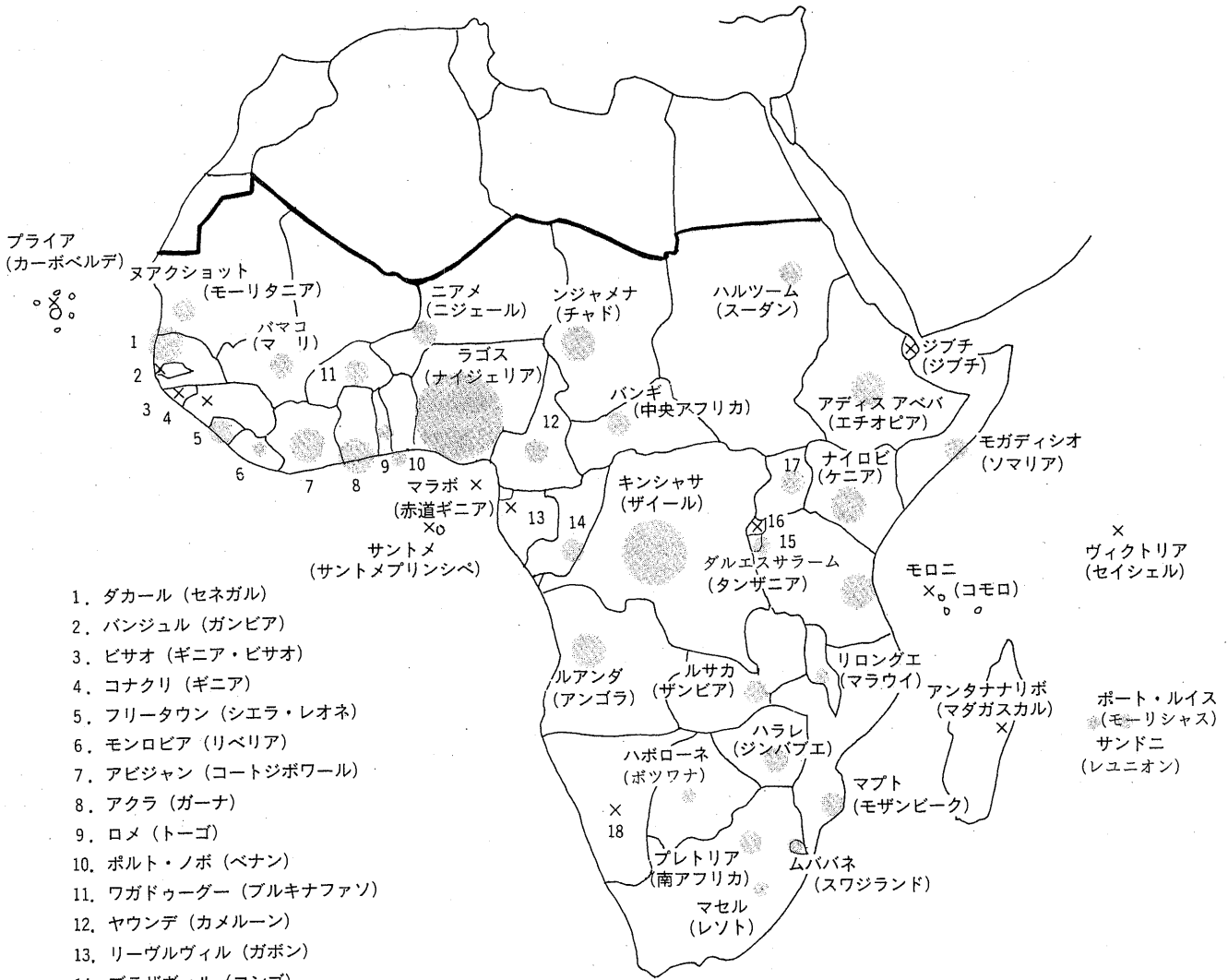


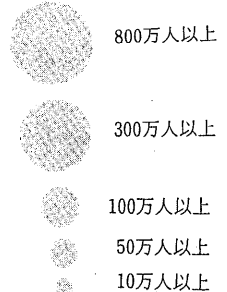
図解・アフリカの都市

作成：佐藤由利江・石崎えり子 (統計調査部)

サハラ以南のアフリカ諸国の首都人口 (1987年推計)

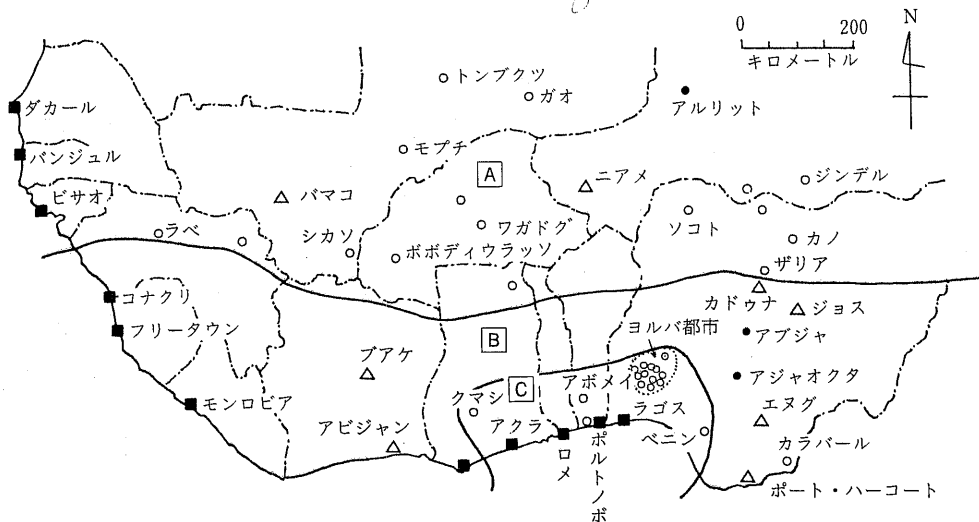


1. ダカール (セネガル)
2. バンジュール (ガンビア)
3. ビサオ (ギニア・ビサオ)
4. コナクリ (ギニア)
5. フリータウン (シエラ・レオネ)
6. モンロビア (リベリア)
7. アビジャン (コートジボワール)
8. アクラ (ガーナ)
9. ロメ (トーゴ)
10. ポルト・ノボ (ベナン)
11. ワガドゥーゲー (ブルキナファソ)
12. ヤウンデ (カメルーン)
13. リーヴルヴィル (ガボン)
14. ブラザヴィル (コンゴ)
15. ブジュンブラ (ブルンジ)
16. キガリ (ルワンダ)
17. カンバラ (ウガンダ)
18. ウィントフック (ナミビア)



(注) 下記の資料より統計調査部で推計。
 ×は数値不明。
 (出所) Europa Publications Limited,
Africa South of the Sahara 1986-1987;
 UN, *Demographic Yearbook*, 1986 ;
 その他各国統計年鑑, センサス。

西アフリカの都市発展類型



〔都市建設の類型〕

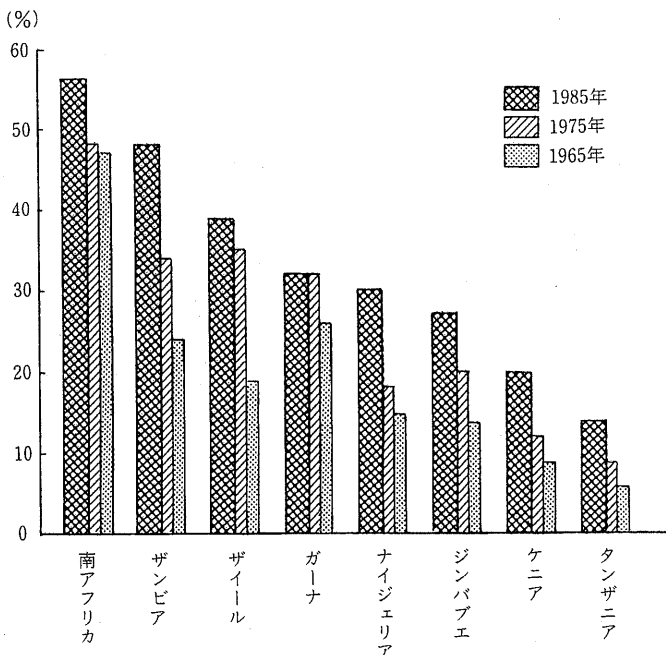
- 主として原住民によって建設された都市
(多くは植民地期の影響によって大きく変容)
- 外国人によって建設された都市 (1900年以前)
- △外国人によって建設された都市 (1900年以後)
- 現代 (独立以後)

〔都市建設に及ぼす主要な影響力〕

- A地域-イスラムの影響が強い。土侯国の首都ならびに旧隊商路の中継地が多い。
- B地域-植民地政府によって建設された都市が支配的。
- C地域-非イスラム教徒原住民都市が多い。

(出所) J. A. Hocking and N. R. Thomson, *Migration and Urbanization in West Africa*,
Edinburgh, Moray House College of Education, 1981, p.48, より作成。

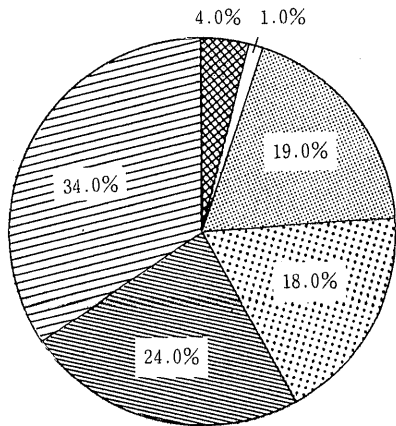
都市化率の変化



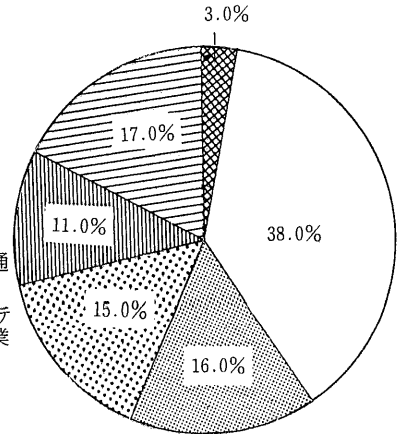
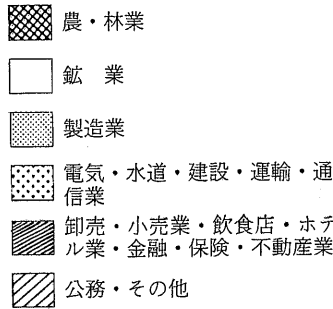
(出所) 世界銀行『世界開発報告』1979年,
1987年。

都市部の雇用構造 (インフォーマル・セクターを除く)

ナイロビ市：ケニア
(1986年)



コッパーベルト州：ザンビア
(1980年)

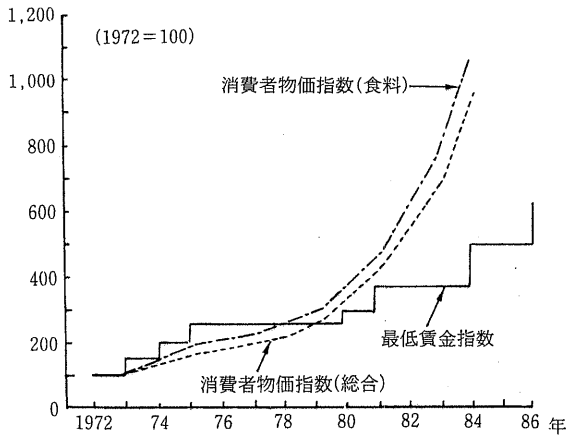


(出所) Kenya, Central Bureau of Statistics, *Statistical Abstract*, 1987.

(出所) Zambia, Central Statistical Office, *Employment and Earnings*, 1980.

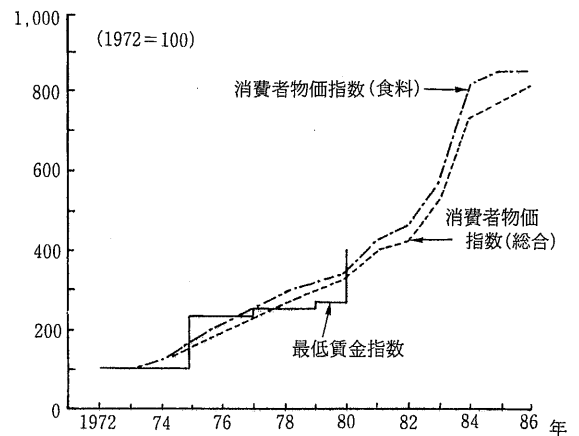
最低賃金と物価指数

ダルエスサラーム市：タンザニア



(出所) 小倉充夫『開発と発展の社会学』東京大学出版会 1982年 204ページ; FAO, *Tanzania: Agricultural Sector Mission Report*, 1987; Bank of Tanzania, *Economic and Operations Report*, 各号。

ナイジェリア都市部



(注) 最低賃金指数はラゴス。

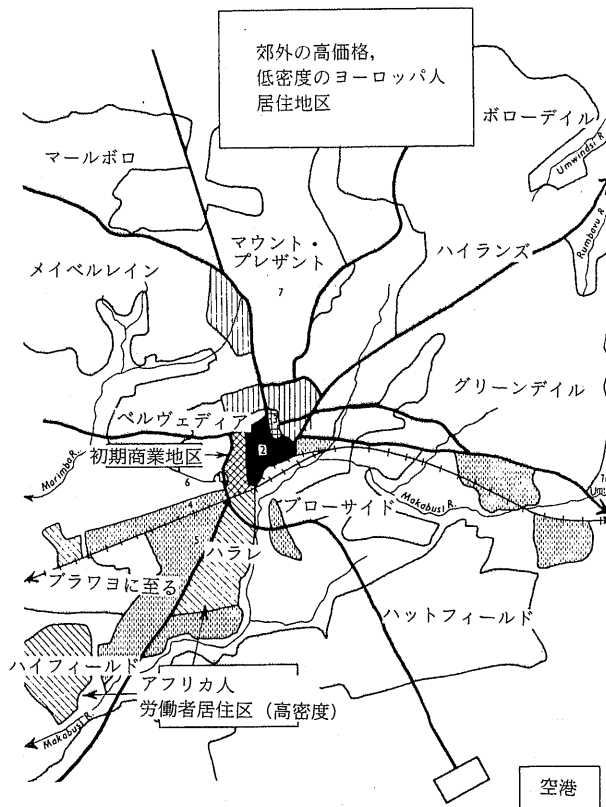
(出所) Bank of Nigeria, *Economic and Financial Review*, Vol.13, No.2; Vol. 20, No.1; Vol.25, No.1/M. Watts, *State, Oil and Agriculture in Nigeria*, Institute of International Studies, University of California, Berkeley, 1987.

ソールズベリー市 (現ハラレ市)

の土地利用

- 中央商業地区
- 官庁地区
- 移行地区
- 工業地区
- 黒人居住区
- 高密度白人居住区
- 低密度白人居住区

0 10km



ナイロビ市中心街の土地利用

